

令和6年度「地域学校協働本部事業」 地域学校協働活動の取組事例

「コミュニティの拠点となる学校」(福島県富岡町)

取組の概要や経緯

「小中併設型・小中連携校 富岡小学校 富岡中学校」となりの3年目。転入等により、徐々に児童生徒数も増加する中「コミュニティの拠点となる学校」を目指して、地域と学校が積極的に関わる活動に取り組んできた。



内容

- 学校支援活動
 - ・授業や行事での支援「校外学習の連絡調整」「授業中の学習ボランティア」
 - ・学校外での支援「夏休みサマースクール」「防災無線町内放送」
- 学校を核とした交流活動
 - ・空き教室における公民館事業的な講座「エコクラフト」「音読教室」
 - ・校内でカフェを開き、地域住民や保護者、教職員が自由に交流「地域交流カフェ」



ポイント

- 学校からの要望等について、統括コーディネーターや推進員がパイプ役となり、地域の方々に協力を依頼し、学校を支援する。
- 月1回、校内でカフェを開催することで、地域住民等の縦横のつながりを広げ、人材のネットワークを拡充する。

成果

- 地域と学校が関わる活動が、小学校70回以上、中学校50回以上と前年度を上回る実施となった。教職員のアンケートでも「校内に地域の方がいることで、地域人材の活用がしやすい」といった好意的な回答があった。
- 地域交流カフェを8回実施し、延べ250人以上の方に参加いただき、地域住民や保護者、教職員の交流の場とすることができた。アンケートにおいても回答者の6割が地域交流カフェが交流の場として「非常に評価できる」という意見であった。

今後の方向性

- 地域と学校や地域住民同士の関係性をさらに深めるために、地域交流カフェを継続して実施するとともに、カフェ内のコンテンツを充実させる。
- 地域学校協働活動を通して、保護者同士のつながりを強められるよう、保護者が参加しやすい日時で事業を実施するなど、開催の工夫をする。
- 地域の方々が訪れやすく、児童生徒と日常的に触れ合えるような学校の環境整備を図る。